令和元年度 社会福祉法人岐協福社会 事業報告

【概 要】

少子高齢社会の一層の進展や人口の減少化に伴い、地域では様々な生活課題が深刻化しています。特に「団塊の世代」が75歳以上となる2025年には、3人に1人が高齢者となる超高齢社会が予想され、さらに2035年には、団塊ジュニア世代が65歳以上に差しかかる一方、劇的な人口不足となる「超少子高齢多死社会」を迎えると言われています。

このような状況において、一人暮らし高齢者や高齢者世帯に加えて、要介護認定者や認知症高齢者の増加に伴い「老老介護」「認認介護」の現実の中で、高齢者に対する様々な課題に対応すべく、介護保険サービスの充実・強化はもとより「高齢者が地域における支え合い、助け合いの中で、住み慣れた地域で生きがいをもって安心して暮らし続けることができる「地域包括ケアシステム」(医療・介護・予防・住まい・生活支援が確保される体制)を構築していくことが望まれてきます。

本法人としても、地域包括ケアシステムを構築する一員として、質の高い介護・福祉サービスを永続的に維持していく使命を果たさなければならないと考え、次の3つの重点事業を掲げ、地域に信頼される総合福祉施設をめざし事業を実施しました。

第1に、職員の人材育成・健康管理が重要であることから、職員が安心して希望をもって働くことができる職場環境づくりと人材育成に努めたほか、人材確保のため職員紹介制度の活用や新聞折込み等による職員募集により、介護・看護職員を確保することができました。また、外国人技能実習生(ベトナム人)6名の採用を内定いたしました。

第2に、本会がさらに発展するには、新しい事業は必要不可欠なことから、昨年取得した大洞幼稚園跡地に「第2大洞岐協苑」の新設計画を今年度も再チャレンジし、岐阜市の審査会において「地域密着型介護老人福祉施設(ユニット型29床)」の新設が認められました。また、介護老人福祉施設の増床(20床)についても同様に認められました。

なお、基幹施設である大洞岐協苑は建設してから26年が経過していることから、引き続き将来を見据えて、利用者が快適に過ごしていただけるよう施設の維持管理に努めました。

第3に、サービスの特色化と他事業所との差別化を図るとともに介護度の改善と利用者の満足度を高めるため、ウォーターベッドをはじめとする機能回復訓練機器の有効活用を図り、また医療依存度の高い利用者へのサービスが提供できる体制を整え、「看取り」についても積極的に取り組み、利用者の多様なニーズに応えられるよう努力しました。

こうした事業を積極的に取り組み、岐協福社会の理念に基づき、柔軟に対応できる自律した経営と質の高いサービスが提供できるよう努めました。

1 法人本部事業

1 理事会・監事会・評議員会の開催

改正社会福祉法に準拠し、経営組織のガバナンスの強化を図るとともに、介護保険事業の経営の安定化・適正化及び地域福祉事業の円滑化をめざし、次のとおり、理事会・監事会・評議員会を開催しました。

(1) 理事会

第1回	期日	令和元年6月10日(月)
	場所	大洞岐協苑 地域交流室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度社会福祉法人岐協福社会事業報告について ・平成30年度社会福祉法人岐協福社会決算報告について ・監査報告について ・社会福祉法人岐協福社会就業規則の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会給与規程の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会給与規程細則の一部改正について ・次期役員(理事及び監事)候補者の推薦について ・評議員選任・解任委員の選任について ・定時評議員会の招集について ・その他 ・報告事項 社会福祉充実残額の算定結果について
第2回	期日	令和元年6月24日(月)
	場所	大洞岐協苑 地域交流室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の選定について ・その他
第3回	期日	令和元年11月15日(金)
	場所	大洞岐協苑 地域交流室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 理事長の職務執行状況について ・報告事項 地域密着型老人福祉施設及び大洞岐協苑特養増床に関する岐阜市審査会の選定結果並びに今後のスケジュールについて ・社会福祉法人岐協福社会就業規則の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会パートタイム職員の就業規則の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会給与規程の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会給与規程細則の一部改正について ・社会福祉法人岐協福社会経理規程の一部改正について ・令和元年度社会福祉法人岐協福社会資金収支補正予算案について ・その他

第4回	期日	令和2年3月26日(木)
	場所	大洞岐協苑 会議室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・報告事項 理事長の職務執行状況の報告について ・令和元年度社会福祉法人岐協福社会資金収支補正予算案について ・令和2年度社会福祉法人岐協福社会事業計画案について ・令和2年度社会福祉法人岐協福社会資金収支予算案について ・社会福祉法人岐協福社会就業規則の一部改正について ・その他

(2) 監事会

第1回	期日	令和元年5月31日(金)
	場所	大洞岐協苑 会議室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度社会福祉法人岐協福社会事業報告について ・平成30年度社会福祉法人岐協福社会決算報告について ・その他

(3) 評議員会

定時評議員会	期日	令和元年6月24日(月)
	場所	大洞岐協苑 地域交流室
	議案	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度社会福祉法人岐協福社会事業報告について ・平成29年度社会福祉法人岐協福社会決算報告について ・監査報告について ・理事及び監事の選任について ・報告事項 社会福祉充実残額の算定結果について ・その他

2 会議・委員会等の開催

事業の適正化と事業所間の連携強化のため、次の会議・委員会を開催しました。

会議名称	開催回数	内 容
事業責任者会議(令和元年6月から経営会議と事業所連絡会議を統合)	毎月 (12回)	各々の事業責任者で構成し、理事長出席のもと事業実績報告を踏まえ経営状態を確認し、懸案事項の検討や課題解決のため協議しました。
全体職員会議	毎月 (4回)	全職員を対象に、当面の重要事項や課題等について伝達と指示を行いました。

広報委員会	毎月 (12回)	各事業所の委員で構成し、広報誌「ほほえみ」を編集し、年3回発行しました。また、ホームページ・ブログの定期更新を管理しました。
安全衛生委員会	毎月 (12回)	安全衛生委員・産業医で構成し、職員の健康確保と快適な職場環境づくり、労働災害事故・交通事故予防について協議しました。
建設委員会	9月～10月 (4回)	新施設について協議、検討しました。 ・先進施設2ヶ所の視察見学を実施しました。

3 地域連携会議の開催

岩・芥見・芥見南・芥見東の4地区の自治会連合会長と社協芥見東支部長の参加のもと、地域密着型老人福祉施設及び大洞岐協苑特養増床の決定に関する報告と今後の地域貢献活動の参考にするため、地域の要望・意見を聞く場としての連携会議を2回(令和元年7月1日(月)、12月19日(木))開催しました。

4 経営基盤の強化・施設等の維持管理

基本財産・運用財産及び公益事業財産は、常に安全で確実な管理に努め、法人及び介護保険事業等の健全な運営を維持するため経営基盤の強化を図りました。

大洞岐協苑では、特養棟が26年、ケアハウスが16年経過し建物等の老朽化も目立ってきており、特養棟では、平成30年度に行った空調設備・照明設備(LED化)の改修工事により、光熱水費が大幅に削減することができました。

また、ケアハウス棟では、平成30年度にトイレ設備のリニューアル工事等の施設整備を行い、生活環境の向上を図りましたが、引き続き長期計画に沿って利用者の方々が快適に過ごすことができるよう必要な改修工事と施設の維持管理に努めました。

日野岐協苑では11年度目を迎え、建物等にも維持保全が必要になってきましたので随時対応しました。

建物、施設等は、保守点検を定期的実施したほか、清潔な生活環境を整えるため清掃、消毒等の充実を図りました。

さらに共通事項として、介護記録ソフトの運用を推進し、業務の効率化を図ることによる職場環境の改善を行いました。

5 地域福祉の機能強化、地域交流事業の推進

岐阜市地域包括支援センター東部を岐阜市から受託(受託期間:平成30年度から3年間)し、今年度も様々な事業を通じて、地域との信頼関係深め、地域福祉の中核としての役割をより一層担うとともに、平成30年7月から市内を3ブロックに分け設置された機能強化型地域包括支援センターのうち、中ブロック(地域包括支援センター8か所)を担当する

「岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター」を岐阜市から受託(受託期間:平成30年7月から平成33年3月)し、地域包括支援センターの支援と強化に努めました。

また、介護保険事業及び軽費老人ホーム(ケアハウス)並びに地域交流室を活用し、計画的にカルチャースクール等を開催したほか、地域に向け、ふれあい広場や地域交流室を開放し、介護予防教室やコーラスグループの活動等、地域福祉の充実に努めました。さらに、ボランティアの育成及び活動の場として施設を開放し、利用者をはじめボランティアや職員がともに地域福祉を考える場となるよう支援しました。

地域交流事業として、大洞岐協苑においては、地域交流行事の「春祭り」「ほたる祭り」「芥見東地区夏祭り」「芥見東福祉健康祭り」「映画鑑賞会」「みどりっこハウス」などの地域と連携した行事・事業への積極的な参加や協力を行い、地域との交流事業を推進しました。

日野岐協苑では、地域との交流が今まで以上に活発となるよう「秋祭り」「文化祭」の内容を拡充し実施しました。

6 岐阜市による実地指導

令和元年12月3日に地域包括支援センター東部、令和元年12月4日に大洞岐協苑特養・短期入所・ケアハウスにおいて、実施指導を受検しました。

7 非常災害対策

利用者の安全を図るため、別に定める防災等管理規程に従って、避難救出訓練を6月・12月と年2回実施しました。併せて、通報訓練、消火訓練を実施しました。また、消防設備の保全及び機器点検を6月・12月に実施し、老朽化が原因による故障などの早期発見に努め、必要に応じ機器の修繕を行いました。

大洞岐協苑においては、平成30年9月に台風21号により15時間を超える停電があり、防災体制の大切さや非常食の重要性を痛感したことから、特に大洞岐協苑は地域の福祉避難所としての役割もあることから、地域の要援護者が安心して避難できる環境を整えるとともに非常食等の備蓄を行いました。

8 職員の健康管理

職員の健康の保持増進を図るとともに疾病の早期発見及びメンタルヘルスの向上に努めるため、産業医等と連携し以下の対応を実施しました。

① 定期健康診断	夜間勤務を担当する職員	年2回(6月・2月)
	その他の職員(パート・Sパート含む)	年1回(6月)
② ストレスチェック	職員、社会保険に加入するパート職員	年1回
③ 定期検便	栄養士	毎月

2 特別養護老人ホーム大洞岐協苑事業(定員80人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

[概要]

利用者の意向とプライバシーを尊重し、心身ともに穏やかに、その有する能力に応じ生きがいを持った生活を送ることができるようサービスの提供に努めました。

入所に関しては待機者名簿を整備し、速やかに入所案内が行えるよう取組んだ結果、53名の新規利用者を迎えました。長期入院等による退所者は44名、入院者は1日あたり平均7名あり、利用率は83.2%と前年度を下回る結果となりました。

また、岐阜清流高等特別支援学校からの介護実習及び岐阜県社会福祉協議会が主催する「福祉の仕事親子体験バスツアー」等を積極的に受け入れ、地域の福祉施設としての役割を果たしました。

1 重点目標

- (1) 看取り介護体制を充実させ、利用者・家族の意向に沿った介護を最期まで提供できるよう努めます。
- (2) 感染症予防ならびに多職種連携による健康管理に努め、利用率90%以上を達成します。
- (3) 介護力向上勉強会を継続し介護の質向上に繋げ利用者満足度の向上を図ります。

2 重点目標に対する取組み

- (1) 看護職員の離職が相次ぎ、職員体制が不安定であった影響もあり看取り介護の実績はありませんでした。
- (2) インフルエンザの感染者は0名でしたが、2月にノロウイルスによる集団感染が発生し、18名(利用者17名、職員1名)が発症しました。重篤者は出なかったものの7名が入院治療を受けることとなりました。来苑者及び面会者に対する啓発ポスターの掲示や面会制限の実施、手洗い・うがいの徹底、さらには行事等を中止するなど感染対策の徹底を図りました。3月には新型コロナウイルス感染症予防への対応として感染予防策の継続を実施しました。
- (3) 「尊厳・虐待防止」「接遇・認知症」「食事・ターミナル」「排泄」の4つのテーマについての勉強会を開催し、職員51名が受講しました。

3 施設サービス計画

利用者と家族の意向を確認し、多職種が参加するカンファレンスにて「自分らしい生活を送るために、どう支援していくか」を話し合い、施設サービス計画書(ケアプラン)を作成しました。カンファレンスは月に3回開催し、サービス実施状況や目標の達成状況を評価し、定期的に施設サービス計画書の更新を行いました。

4 介護サービス

サービス提供については、個別の施設サービス計画に基づき利用者の心身の状況に応じた適切なケアを提供しました。重度化に伴う看取り介護への対応、個人に合わせた排泄方法の導入、事故予防の徹底など、各委員会活動で取り組んだ成果を生かし利用者が安心安全に生活を送れるよう努めました。

5 機能訓練

利用者のADL(日常生活動作)の維持向上をはかり、充実した生活を送れるよう、健康状態及び歩行能力などの動作能力を把握し、多職種が参加するカンファレンスにて個別機能訓練計画書を作成し、利用者及び家族の同意を得て実施しました。また、実施状況を3カ月ごとに評価し、個別機能訓練計画書の更新を行いました。

6 食事サービス

- (1) 栄養バランスを考慮し、季節を感じられる食材を取り入れバラエティに富んだ献立を作成、適温にて食事を提供しました。また、食べることのできない献立の時は、代替食を準備するなど利用者の個別ニーズに合わせました。
- (2) 管理栄養士によるミールラウンドにて食事の様子観察を行いました。低栄養状態の予防・改善のため、栄養アセスメントに基づいた栄養ケア計画を多職種協働にて作成し、3か月の期間で更新を図りました。また、食事摂取量や体重が低下している利用者に対しては、補助食品の追加や提供方法の工夫、食事形態を変更するなど、栄養状態の改善に努めました。
- (3) 健康状態により、食事管理が必要な利用者16名に対し、主治医の指示の下、食事箋に基づいた療養食の提供を行いました。
- (4) 新たな献立の提案(12件)や2ヶ月に1回のバイキング形式の昼食・週1回の選択メニュー、年1回の嗜好調査を実施し、嗜好への対応と満足度の向上に努めました。なお、3月は新型コロナウイルス感染症対応として、バイキング形式での提供は取りやめ個人盛りでの提供としました。

〈バイキングの実施内容〉

4月:にぎり寿司、6月:朴葉寿司、8月:おにぎり・サンドウィッチ、
10月:五平餅・みたらし団子、12月:すき焼き、3月:にぎり寿司

- (5) 厨房内の衛生管理の徹底(5S活動)を図り、ノロウイルスなどの食中毒及び感染症の発生防止に努めました。令和元年12月9日には岐阜市保健所の立ち入り調査があり、機械・器具等の異物混入表の作成及び衛生手袋の適宜交換等の指摘を受けましたので改善策を講じ周知・徹底を図りました。

7 健康管理

利用者一人ひとりの既往歴や現疾病の状況を十分に把握し、常に体調の変化に留意し、主治医及び協力医療機関との連携を密に必要な医療処置、病気の予防など健康管理に努めました。

(1) 嘱託医の診察	内科	週2回(火・金曜日)	河村病院
	精神科	月1回	森清クリニック
(2) 歯科医の診察		週1回(水曜日)	河村病院
(3) 健康診断(胸部X線など)		年1回	岐阜健康管理センター
(4) 体重測定		毎月	
(5) 予防接種		インフルエンザ予防接種(11月)	
(6) 職員の健康管理			
	定期健康診断	夜間勤務職員	年2回、その他の職員 1回
	定期検便	直接処遇職員	年1回、栄養士 毎月

8 看取り介護の実施

住み慣れたホームにて本人及び家族等の意向を尊重した介護を実施し、残された余命を平穏に過していただく看取り介護の実績はありませんでした。

9 会議等

事業運営体制の充実と職員間の連携、さらには介護の質向上を目的として、会議及び委員会活動を実施しました。

2月にはノロウイルス感染症の集団発生への対応にて、3月には新型コロナウイルス感染症予防対策にて会議等は中止とし文書配布の対応としました。また、ボランティア感謝の集い(2月)、家族会議(3月)は中止としました。

- (1) 毎月開催
特養会議、介護職員会議、行事委員会、給食委員会、介護力向上委員会、
入所検討委員会、事故・身体拘束・感染症委員会
- (2) 年3回開催(4月・8月・12月)
入苑者懇談会

10 研修

介護職員等の資質の向上を図るため、苑内外研修に積極的に参加しました。

(1) 苑内研修

新人研修、事故防止研修、感染予防研修等を実施し、苑内研修は年8回実施しました。なお、2月はノロウイルス感染症の影響にて、3月は新型コロナウイルス感染症対応のため全体での研修会は取りやめ、資料配布にて代替えとしました。

月	研修テーマ	参加者数	内特養職員
4月	初任者研修(4日間)	10名	4名
5月	事業計画の共有と目標について(ビジョン発表)	22名	9名
6月	感染症予防、食中毒予防について	26名	17名
8月	事故防止・身体拘束について	16名	7名
9月	地域の方が安心して暮らせるまちづくり	29名	13名
10月	メンタルヘルス研修	23名	9名
11月	感染症対策について(ノロウイルス等)	30名	10名
1月	高齢者施設における接遇	13名	24名
2月	事故防止・身体拘束について	資料配布	
3月	看取り実践報告(ターミナルケア研修)	資料配布	

(2) 外部研修

岐阜県介護研修センターや岐阜県社会福祉協議会などの機関が主催する研修会に20名(実人数 大洞岐協拠点では46名)が参加しました。

(3) 勉強会の開催について

① 介護力向上勉強会

特別養護老人ホーム所属の職員51名(介護:39名、相談・栄養:7名、看護:5名)を対象に、介護力の向上及び職員間の連携向上を目的として「尊厳・虐待防止」「接遇・認知症」「食事・ターミナル」「排泄」の4つのテーマについての勉強会を6月から3月にかけて計20回(月2回)開催しました。講師は係長・主任が務めました。

② 資格取得勉強会

介護支援専門員勉強会及び介護福祉士勉強会を計画しましたが、令和元年度は受験対象者がありませんでした。

11 非常災害対策

利用者の安全を図るため、別に定める防災等管理規程に従って、避難救出訓練を6月・12月と年2回実施しました。併せて、通報訓練、消火訓練を実施しました。また、消防設備の保全及び機器点検を6月・12月に実施し、老朽化が原因による故障などの早期発見に努め、必要に応じ機器の修繕を行いました。

12 建物施設管理

建物施設等は保守点検を定期的実施し、維持管理に努めました。老朽化による破損等(正面玄関自動ドア装置の交換、温冷配膳車ユニット交換、スチームコンベクション基板交換)の修繕を実施するほか、業務用洗濯機1台及び食器消毒保管庫1台を更新しました。また、介護用ベッド(3モーター)20台を更新するとともに超低床介護ベッド1台を導入し、介護環境の向上を図りました。

清潔な生活環境を整えるため清掃委託業者と連携し日常清掃に努めました。また、床のワックスがけを9月に実施、3月は新型コロナウイルス感染症対応により特養棟の共用部分及びケアハウス棟の共用部分のみ実施しました。さらに消毒による害虫駆除を5月・8月・2月に実施しました。

13 岐阜市高齢者等緊急一時保護事業(平成30年度から受託した岐阜市の委託事業)

夜間や休日に警察等で保護された高齢者等を一時的に保護し、心身の安全を確保する目的にて実施する事業を受託し2年度目となりました。

令和元年度は6月に1名の緊急受け入れを実施しました。(延べ日数2日)

14 令和元年度 行事結果報告

2月はノロウイルス感染症の発生があり、感染拡大を防止するため中止としました。3月は「家族会」「ボランティア感謝の集い」の予定がありましたが、新型コロナウイルス感染症の予防対応により中止としました。

実施日	行事名	利用者数	備考
4月4日	花見会	43名	こもれ陽の会による歌と踊りを鑑賞し、花神輿を観覧しました。
4月12日	入所者懇談会	18名	入苑者の要望を聞き意見交換し、桜の前で記念写真を撮りました。
5月8日	遠足1班	5名	行先:長良公園。家族3名の参加がありました。ボランティアは4名に協力を頂きました。
5月15日	遠足2班	12名	行先:アクアト・ぎふ。家族2名の参加がありました。ボランティア6名に協力を頂きました。
5月22日	遠足3班	12名	行先:アクアト・ぎふ。ボランティア6名に協力を頂きました。
5月29日	遠足4班	9名	行先:アクアト・ぎふ。家族1名の参加がありました。ボランティア6名に協力を頂きました。
6月1日	ほたる祭り	5名	地域協賛事業、出店の雰囲気を楽しむ、蛍を見に山田川を散策しました。
6月18日	ミニドライブ	2名	鶺鴒ミュージアムを散策し、バーミヤンで昼食をとりました。
7月5日	七夕会	35名	こもれ陽の会による歌と踊りの鑑賞願い事の短冊を披露しました。
7月17日	流しそうめん	36名	季節行事 中庭で流し竹を設置し、季節を感じながら流しそうめんを行いました。

8月2日	入苑者懇談会	17名	入苑者の要望を聞き意見交換し、参加者全員で記念写真を撮りました。
8月17日	納涼祭	52名	季節行事 出店の雰囲気を楽しむ、盆踊りの輪に加わりました。
8月30日	あいばち	30名	会議室を会場としてパチンコ体験をしました。
9月16日	敬老会	58名	最高齢100歳3名、節目のお祝い対象者 8名、フラダンスの余興。
9月18日	彼岸法要	14名	在苑中(3月から9月)に他界された方17名の法要を行いました。
10月20日	運動会	71名	季節行事 19家族が参加 赤組優勝。
11月18日	文化祭	41名	季節行事 25家族が参加 被服販売や己書が初めて出店しました。催し物はコーラス。
12月18日	もちつき大会	35名	季節行事 入苑者を代表して6名の方に杵を握ってもらい、餅を仕上げました。
12月13日	入苑者懇談会	13名	入苑者の要望を聞き意見交換しました。
12月26日	クリスマス忘年会	64名	季節行事 各職員の出し物(歌・踊り)サンタ・トナカイに扮した職員がプレゼントを配りました。
2月3日	節分祭	38名	季節行事 こもれ陽の会による歌と踊りの鑑賞、年男・年女による豆まきで厄を払い、福を呼びました。
3月7日	家族会	なし	新型コロナウイルス感染症対応のため中止となりました。
3月7日	ひな祭り会	なし	新型コロナウイルス感染症対応のため中止となりました。
3月18日	お彼岸法要	3名	在苑中(9月から3月)に他界された方9名の法要。新型コロナウイルス感染症対応のため、代表者にて行いました。
毎月	誕生日会	平均30名	各ボランティア団体による催し物、入苑者によるカラオケ大会。(2月・3月は感染症対応のため中止)
毎月	音楽療法	平均30名	音楽療法士による歌や楽器演奏。(2月・3月は感染症対応のため中止)
隔月	買い物ツアー	平均3名	社会への参加を目的とし、芥見のバロー、関のマーゴへ出かけました。

15 ボランティア等の活動状況(順不同・敬称略)

2月はノロウイルス感染症、3月は新型コロナウイルス感染症対応により受け入れを中止しました。

団体・個人名	活動内容	備考
日赤奉仕団 芥見東分団	入浴後のドライヤー 遠足・納涼祭・文化祭の手伝い	月2回
日赤奉仕団 芥見南分団	入浴後のドライヤー 遠足・納涼祭・文化祭の手伝い	月2回
日赤奉仕団 芥見分団	入浴後のドライヤー 遠足・納涼祭・文化祭の手伝い	月1回
日赤奉仕団 岩分団	入浴後のドライヤー 遠足・納涼祭・文化祭の手伝い	月1回
レインボー	入浴後のドライヤー	月2回
佐藤好子・佐藤さだゑ	喫茶の手伝い	週1回
門屋由美	喫茶の手伝い	週3回
浅野洋子	喫茶の手伝い	週1回
この指とまれ	傾聴、マニキュア、読み聞かせ 遠足・納涼祭・文化祭の手伝い 買い物ツアーの付添い	月2回 隔月1回
藤川嘉子	大正琴の手伝い	月1回
たんぼぼ	大正琴の演奏	月1回
協美会	生け花の講師	月1回
こもれ陽の会	花見会の催し物(歌・踊り) 七夕会の催し物(歌・踊り) 誕生会の催し物(歌・踊り) 節分祭の催し物(歌・踊り)	4月 7月 11月 2月
岐阜県遊技業協同組合	あいばちの支援	8月
藍川東中学校(生徒会)	清掃活動	6月
藍川北中学校(音楽部)	琴の演奏	7月
(一財)岐阜社会福祉事業協力会	あいばちの景品交換 文化祭のバザー	8月 11月
コーロポエム	文化祭の催し物	11月
西本願寺ビハーク	彼岸法要の読経、講話	9月・3月

芥見幼稚園	合唱、ふれあい、肩たたき	10月
大洞こども園	踊り・鼓笛隊の演奏、肩たたき	10月
清流会	清掃活動	12月
ミスターマジック	誕生会の催し物	4月
ハーモニカ 竹山夫妻	誕生会の催し物	5月
ハーラウワレアホワヘレ	誕生会の催し物(フラダンス)	6月
こぶしの会	誕生会の催し物(カラオケ) 誕生会の催し物(カラオケ)	7月 12月
秀採美会	誕生会の催し物(歌・踊り)	8月
かがみのハーモニー	誕生会の催し物(ハーモニカ)	9月
虹の会	誕生会の催し物(歌・踊り)	10月
三輪会	誕生会の催し物(フォークダンス)	12月
虹の会	誕生会の催し物(カラオケ)	9月
森 佳子	誕生会の催し物(音楽療法)	10月
武山さん夫妻	誕生会の催し物(ハーモニカ)	11月

16 利用状況実績表

項 目	H27	H28	H29	H30	R1
平均年齢(歳)	85.6	86.8	85.9	87.3	85.3
平均要介護度	3.87	3.83	3.87	3.80	3.70
利用延べ人数	26,789	26,246	25,243	25,647	24,367
1日平均利用者数	73.2	71.9	69.2	70.3	66.6
利用率(%)	91.7	89.9	86.6	87.9	83.2

3 特別養護老人ホーム大洞岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

[概要]

在宅介護を続ける介護者の介護負担軽減を主目的とした事業であり、利用者の要介護状態の低下防止と地域の期待や利用ニーズに応えるために、以下の重点目標を掲げ利用者及び介護者が安心して利用できるサービスを提供に努めました。

新規契約者は年間を通じて66名あり、利用率は91.7%と前年度を大きく上回りました。

1 重点目標

- (1) ケアマネジャーや各関係機関と協力し、選ばれるサービスの提供を行い、利用率83%を達成します。
- (2) 住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、多職種が連携を図り、利用者一人ひとりに合ったサービスを職員が一致した対応にて行います。
- (3) 利用者・家族の意向に沿った機能訓練を提供し、ADL(日常生活動作)の維持・向上に努めます。

2 重点目標に対する取組み

- (1) 柔軟な相談対応を実施し、利用率は91.7%と目標を達成し前年度を大きく上回る結果となりました。特に、居宅支援事業所に対しては空所情報及び活動状況のお知らせ文を月に2回発信するなど新規利用者の増加に努めました。その結果、66名の新規利用者を迎えることが出来ました。
- (2) 利用状況について担当ケアマネジャーや家族等に対し、モニタリングを月に1回発信し、情報の提供と収集に努めました。
- (3) 機能訓練指導員によるリハビリテーション活動の充実を図りました。

3 介護サービス

- (1) 利用者ごとに作成される居宅サービス計画に基づき、利用者の要介護状態の低下の防止のため、利用者の心身の状況に応じ適切なサービスの提供に当たりました。
- (2) 利用者に対し、1週間に2回以上その状態に応じ適切な方法により入浴、清拭及び部分浴を実施しました。
- (3) 排泄の自立についての誘導、排泄訓練など必要な援助を行いました。なお、おむつ使用者には、形態別おむつ使用、随時交換など適切な介助を行いました。
- (4) 口腔ケア、離床、着替え、整容等の介護を適切に行いました。
- (5) 利用者の身の周りの整理整頓に努め、室内の換気、温度調整に注意を払い、落ち着いた環境空間を提供しました。
- (6) 衣類は清潔に心掛け、洗濯は適切に行いました。
- (7) 心身の状況等を踏まえ、必要に応じて生活機能の改善又は維持のための機能訓練を行いました。

4 食事サービス

- (1) 管理栄養士によるミールラウンドにて食事の様子観察を行いました。摂取状況が低下している利用者に対してはカンファレンスを実施し、補助食品の追加や提供方法の工夫、食事形態を変更するなど、栄養状態の改善に努めました。
- (2) 健康状態により、食事管理が必要な利用者1名に対し、主治医の指示の下、療養食

の提供を行いました。

(3) 選択メニューを週に1回実施し嗜好の確認を行いました。また、食べることのできない献立の時は代替え品を準備するなど、個人のニーズに合わせました。

5 健康管理

利用者の健康の保持増進を図るとともに疾病の予防、異常の早期発見と日常の健康状態の把握に努め、必要に応じ主治医又は嘱託医との連携を図る等、健康管理に万全を期すものとなりました。

6 機能訓練

利用者の皆様が在宅生活を継続できるよう、希望に応じて、身体機能の維持及び健康の増進を目標に機能訓練を行いました。

7 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図るために併設の特別養護老人ホームと協働し委員会活動を実施しました。また、短期入所生活介護事業の介護力の向上及び居宅サービス事業所との連携を向上させるため、居宅サービス向上委員会(月1回、居宅支援事業所、デイサービス、ヘルパー事業所の代表者が参加)を開催しました。

8 利用状況実績表

項目	H27	H28	H29	H30	R1
平均要介護度	2.78	2.99	2.80	2.75	2.75
利用者数(人)	538	459	423	462	556
利用延べ人数	6,661	6,625	5,881	5,894	6,713
1日平均利用者数	18.2	18.2	16.1	16.1	18.3
利用率(%)	91.0	90.8	80.6	80.7	91.7

4 老人デイサービスセンター大洞岐協苑事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100792

[概要]

要介護状態等にある高齢者等に対し、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・機能訓練・レクリエーションの提供を柱として、必要な日常生活上の生活指導及び介護サービスを行いました。利用者の立場に立った介護サービスを提供し、心身機能の維持向上や社会的孤立感の解消ならびに家族の身体的、精神的負担の軽減を図り、利用者の在宅生活を支援しました。

特に前年度に導入した機能回復訓練機器を活用したリハビリテーション活動に注力し個別機能訓練計画の見直しを行うなど活動の充実を図りました。

お試し利用者は年間31名、新規契約者は年間24名ありましたが、稼働率は83.3%と前年度を下回る結果となりました。

1 重点目標

- (1) 居心地の良い空間と安全に配慮したゆとりのある環境をつくり、事故ゼロを目指します。
- (2) 思いやりのあるきめ細やかなサービスを提供し利用者満足の上と利用率90%を目指します。
- (3) 日常生活に活かせるようなリハビリテーション活動を提供し、在宅生活の継続を支えます。

2 重点目標への取り組み

- (1) 居心地の良い空間と安全に配慮したゆとりのある環境をつくり、事故ゼロを目指しましたが、2件の事故が発生しました。
 - ・行方不明事故1件…お試し利用者が行方不明となり苑内外を捜索、3時間半後に近隣の公園にて無事発見されました。
 - ・転倒事故1件 …お迎え時の車椅子介助中に段差を踏み外し転倒、共倒れとなりました。骨折なく1週間後に利用再開となりました。
- (2) 思いやりのあるきめ細やかなサービスを提供し利用者満足の上を図りました。利用率は83.3%と目標を大きく下回りました。
- (3) 個別機能訓練計画の見直しを行い、リハビリテーション活動の充実を図りました。

3 通所介護事業の内容(要介護を対象)

(1) 通所介護計画

サービス提供の開始に際しては、居宅サービス計画に沿って利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、機能訓練等の目標、サービスの具体的な内容をもちこんだ通所介護計画を作成し、適切なサービスの提供にあたりました。

(2) 通所介護の内容

① 生活指導(相談援助)

日常生活相談及び介護保険適用サービス相談

② 介護サービス

移動、入浴、食事、排泄等の介助及び見守り等のサービス

③ 健康状態の確認

心身の健康状態等体調の観察及び確認と連絡

- ④ 食事
利用者への栄養価と嗜好をもとに、健康状態に配慮した食事形態の提供
 - ⑤ 入浴
身体状況にあわせて、一般浴槽又は特殊浴槽により入浴又は清拭を行う
 - ⑥ 送迎
身体状況に合わせた送迎の介助及びリフト付きバス等による送迎
 - (3) 機能訓練
機能訓練指導員が中心となり、利用者個別の健康状態・日常生活動作の把握と具体的な生活目標の設定を行い、その実現に向けて、多職種協働で個別機能訓練計画を作成し訓練を実施しました。
 - (4) 余暇活動
利用者に対して集団的に行うレクリエーションと共に、個別レクリエーションを実施し、創作活動・生活機能維持・向上を強化しました。また、季節を感じる外出活動や手作りおやつ、製作活動を実施しました。
 - (5) 利用定員 30名(事業対象者及び要支援者を含む)
居宅支援事業所との連携のもと、定員の充足を図るよう努めました。
- 4 介護予防・日常生活支援総合事業 通所介護相当サービス事業の内容 (事業対象者及び要支援を対象)
- (1) 通所介護計画
サービス提供の開始に際しては、介護予防サービス・支援計画に沿って利用者の心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、機能訓練等の目標、サービスの具体的な内容をもりこんだ通所介護計画を作成し、適切なサービスの提供にあたりました。
 - (2) 事業内容
 - ① 共通サービス
生活相談、入浴・送迎・食事の各種サービス、健康管理等については、通所介護事業と同等の内容で提供しました。
 - ② アクティビティ(集団レクリエーションや創作等の活動)
学習・創作・音楽・料理・ゲーム・社会交流等の活動を、地域行事への参加や季節感を取り入れ、小グループ制で実施しました。
 - ③ 選択的サービス
運動器機能の向上が図れるよう、利用者個人ごとの日常動作の把握と具体的な生活目標の設定を行い、その実現に向けて、他職種協働で個別機能訓練計画を作成し、機能訓練を行いました。

5 基準緩和型デイサービス事業の内容（事業対象者及び要支援を対象）

通所介護相当サービス事業の指定にかかる基準を緩和した基準（2時間を基準）により指定を受けていますが、事業への相談がなく実績はありませんでした。

6 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

(1) 毎月開催

デイサービス会議（ただし、3月は新型コロナウイルス感染症対応のため中止）

(2) ドライバーミーティング

安全運転については毎日のミーティングにて危険個所の確認を行うとともに、接触事故があった場合などは随時開催（実績：4回）し安全運転の徹底を図りました。

(3) 研修

介護職員等の資質の向上を図るため、苑内研修に積極的に参加するとともに、デイサービス会議にて研修会を行いました。

7 利用状況実績表

項目	H27	H28	H29	H30	R1
平均要介護度	1.44	1.45	1.34	1.40	1.40
利用延べ人数	6,890	8,051	8,141	8,081	7,678
利用者数(介護)	584	584	578	665	732
利用者数(支援)	238	353	378	291	218
1日平均利用者数	22.1	26.0	26.3	26.6	24.9

5 大洞岐協苑訪問介護事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170101139号

[概要]

要介護状態等となった高齢者が、住み慣れたまちでいつまでも暮らし続けるため、精神面の支援を含め、身体介護や生活援助等生活全般にわたる援助を行いました。

常に利用者の気持ちに寄り添い自立支援に努め、サービス提供責任者が作成する計画書に基づき、活動の内容や手順や留意点を確認し、ヘルパーが統一した方法で援助しました。

新規契約者は年間を通じて25名ありました。月の訪問件数は平均515件と前年度に比べ26%増加しました。

1 重点目標

(1) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所との連携を強化し、新規相談や計画

変更について柔軟な対応を行い、活動時間の増加を図ります。

- (2) ヘルパー技術向上のため定期的に研修を実施し、より質の高いサービスを提供します。
- (3) 登録ヘルパーの増員に努めます。

2 重点目標に対する取り組み

- (1) 地域包括支援センター・居宅介護支援事業所との連携を強化し、新規相談や計画変更について柔軟な対応を行った結果、月の訪問件数が平均515件と前年比26%増加、新規契約者は25名ありました。(要介護:5名、要支援及び事業対象者:20名)
- (2) ヘルパー技術向上のため研修会を2回実施するとともに、ヘルパー間にて情報を共有し、より質の高いサービスの提供に努めました。
- (3) 登録ヘルパーの採用に努めましたが新規登録は1名でした。また、登録ヘルパーの高齢化もあり2名が登録を外れました。(令和元年3月末現在で7名)

3 訪問介護事業の内容(要介護を対象)

利用者の日常生活を営むのに必要な機能の向上等のための介助及び専門的な援助を以下のとおり実施しました。

(1) 身体介護

- ① 食事介助 嚥下や水分摂取状態に注意しながら介助を行いました。
- ② 入浴介助 身体状態に合わせ、入浴及び清拭、洗髪を行いました。
- ③ 排泄介助 トイレへの誘導、おむつ交換などを適切に行いました。
- ④ 口腔ケア 食事後、口腔等の清潔保持のためブラッシングや義歯の手入れを行いました。
- ⑤ 体位交換 自力で思うように体が動かせない方が床ずれを作らないよう、体の向きを変えました。
- ⑥ 衣類交換 着替えの準備や衣類の交換を行いました。

(2) 生活援助

- ① 買い物 調理に必要なもの、生活に必要な物品の買い物を行いました。
- ② 調理 嗜好に合わせた献立による調理を行い、食事の準備、後片付けを行いました。
- ③ 掃除 生活環境を整え、清潔が保てるよう掃除を行いました。
- ④ 洗濯 生活環境を整え、衛生が保てるよう着替え衣類の洗濯を行いました。
- ⑤ 寝具の整理 シーツ交換、布団干し、ベッドメイキング等寝具の衛生保持を行いました。
- ⑥ ゴミ出し ゴミをとりまとめ、地域の指定場所へ出しました。
- ⑦ 相談助言 悩みなどを拝聴し、関係者に報告しました。

4 岐阜市介護予防・日常生活支援総合事業 訪問介護相当サービス事業（事業対象者及び要支援を対象）

岐阜市介護予防・日常生活支援総合事業（以下、「事業対象者」という。）及び要支援1・要支援2の状態にある対象者に対して、介護予防サービス・支援計画に基づき介護予防を目的としたサービスを実施しました。

5 有償サービス

介護保険サービスでは対応ができない病院付添いなどの要望について、有償サービスで対応を行いました。（年間延べ60件）

6 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

(1) 毎月開催

ヘルパー会議（ただし、3月は新型コロナウイルス感染症対応のため中止）

(2) 研修

年間計画に基づいた研修をヘルパー会議と併せて開催し、訪問介護員及び登録ヘルパーの資質の向上を図りました。また、苑内研修に積極的に参加しました。

7 利用状況実績表

項目	H27	H28	H29	H30	R1
平均要介護度	0.94	1.00	1.4	1.2	1.5
利用延べ人数	4,776	4,809	4,900	4,973	6,168
利用者数(介護)	322	352	348	333	469
利用者数(支援)	423	395	427	457	534
1日平均利用者数	15.4	15.4	15.8	16.1	18.3

6 グループホーム大洞岐協苑事業(定員9人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170102483号

[概要]

認知症対応型共同生活介護は、要介護者であって認知症の状態にある者に対し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者がその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう援助しました。

明るくあたたかなふれあいホームを基本にして、事故ゼロの目標を掲げ転倒防止のための体力づくりの体操や散歩を継続しました。食事は栄養士と連携を図り、健康管理を基本にしたバ

ランスの良い家庭的な献立を提供しました。

利用者の意思及び人格を尊重し、季節感を大切に生活を送れるようサービスの提供に努め、地域が開催する「ふれあいサロン」への参加や外出支援を積極的に行いましたが、2月3月は新型コロナウイルス感染症対応として外出を中止し、ホームでの活動を充実させました。

令和元年度は2名の退苑、2名の入苑がありました。速やかな入苑が行えたこと、入院者も少なかったことにより利用率は98.0%と前年度を上回りました。

1 重点目標

- (1) 利用者の主体性を活かし個別ケアの充実を図る。
- (2) 重度化に伴い職員の介護技術、知識の向上を目指す。
- (3) 事故防止に努め、安心した生活を送れるように支援する。

2 重点目標に対する取組み

- (1) 介護計画(以下「ケアプラン」という。)に個別ケアを位置づけ、利用者の希望による外出活動や地域活動への参加を支援しました。
- (2) 資質向上については認知症介護基礎研修に1名が参加しました。
- (3) 事故防止についてはヒヤリハット帳を活用し予防に努めましたが、1件の転倒事故(骨折)が発生しました。なお、再発防止策を速やかに講じ全職員への周知徹底を図りました。

3 介護計画

ケアプランは、計画作成担当者が作成し利用者の心身の状況、生活への希望及び家族の希望等を踏まえ具体的な内容としました。

4 介護サービス

サービスの提供に当たっては、ケアプランに基づき利用者の心身の状況に応じ、自立支援と日常生活の充実を図れるよう適切に行い、食事その他の家事等は、利用者と介護職員が共同にて行いました。

5 食事サービス

嚥下状態の悪い利用者に対しては食事形態の変更や自助具の使用など、誤嚥のないよう見守りを強化し事故防止に努めました。また、糖尿病等の持病のある利用者には、主治医や管理栄養士と相談し食事内容の変更を行いました。

6 健康管理

利用者の多様な疾患の実態を把握し、健康の保持増進を図るとともに、疾病予防、異

常の早期発見と日常の健康状態の把握に努め、健康管理に万全を期しました。特に、利用者の主治医との連携を密に行いました。

7 非常災害対策

利用者の安全を図るため、別に定める施設防災管理規定に従って、避難救出訓練を併設の特別養護老人ホームと合同で年2回(6月、12月)実施しました。また、消防施設の保全及び整備点検に努めました。

8 自己評価及び外部評価

グループホームの現状を多角的に分析しサービスの質の向上を高めるため自己評価を実施しました。また、令和元年9月に認定評価機関である「NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センターびーすけっと」による外部評価を受けました。

9 会議等

地域との連携及び協力を行うため、地域に対しグループホームの状況を知っていただく目的で開催する運営推進会議を年5回(5月、7月、9月、11月、1月)開催しました。なお、3月は開催を予定しましたが新型コロナウイルス感染症対応にて中止し資料配布としました。

グループホーム会議を毎月開催し、事業運営の適正及び職員間の連携を図りました。また、苑内研修に積極的に参加しました。

10 利用状況実績表

項目	H27	H28	H29	H30	R1
平均年齢(歳)	89.4	89.8	87.2	87.1	88.4
平均要介護度	1.78	1.75	2.00	2.30	2.70
利用延べ人数	3,247	3,113	3,003	3,184	3,229
1日平均利用者数	8.9	8.5	8.3	8.7	8.8
利用率(%)	98.8	94.8	92.3	96.9	98.0

7 在宅介護支援センター事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100123号

[概要]

指定居宅介護支援事業の適正な運営を確保するとともに、要介護等の認定を受けた高齢者等が住み慣れた地域で生活するために、利用者の希望や家族の意向を踏まえた居宅サービス計画(以下、「ケアプラン」という。)を作成し適切な介護サービスの提供が図れるよう努めま

した。

様々なニーズに応えるため、広く関係機関や居宅サービス事業所等と情報交換し、必要な知識を習得してケアマネジメントの質の向上を図りました。地域包括ケアシステムの一員であることを自覚し、地域サロンへ参加し介護相談等を行うとともに地域ネットワーク会議等へも積極的に参加しました。

ケアプラン件数は、介護支援専門員の異動による影響もあり、月平均110件(予防ケアプラン含む)と前年度を下回りました。

1 重点目標

- (1) 医療機関及び居宅サービス事業所との連携を強化し、利用者を取り巻く地域の様々な社会資源を活用できるよう各機関との情報交換を密に行います。
- (2) 常に利用者に寄り添い、その立場に立った質の高いケアマネジメントを提供できるようスキルアップに努めます。

2 重点目標に対する取り組み

- (1) 地域包括支援センター東部が中心となって構成する心をつなぐほっとメイト会の活動や、東部地域の介護福祉関係者にて構成する東部在宅ケア会議やひまわりの会(主任介護支援専門員が中心となった連絡会)に積極的に参加し、連携や情報交換を行いました。
- (2) 居宅会議を毎週1回開催し、利用者の情報や留意事項などを事業所内で共有し、適切なケアマネジメントが行えるよう努めました。

3 居宅介護支援事業の内容(介護保険事業)

- (1) ケアプランは、居宅介護支援専門員により要介護等の認定者が自立した日常生活を営むことができるよう、高齢者及びその家族の希望を踏まえて作成しました。
- (2) ケアプランの作成において、保険給付の対象になるか否か、その種類、内容及び利用料等について利用者又はその家族等に説明し同意を得ることに留意しました。
- (3) ケアプランに位置付けたサービス等について、サービス担当者会議又は照会等によりその担当者から意見を求めました。
- (4) ケアプランは、介護認定審査会の意見又はサービスの種類の指定がされている場合は、その内容にそって作成しました。
- (5) ケアプラン作成後は、月1回は利用者宅を訪問し、サービスの実施状況を把握し、必要に応じてプランを変更し事業所等へ連絡調整することができました。
- (6) 要介護状態等の更新は、要介護認定等の有効期間の満了の30日前に申請が行えるよう援助することができました。

4 介護予防支援事業(地域包括支援センターからの受託事業)

岐阜市地域包括支援センター東部との連携を密にし、介護予防支援事業の積極的な拡充を図ることができました。また、東部圏域以外の地域包括支援センターからも事業を受託し年間延べ217件の実績がありました。

5 要介護認定調査(市町村からの受託事業 主に岐阜市)

介護保険の更新認定及び区分変更に必要な訪問調査を受託し、訪問調査後すみやかに調査票を作成することができました。また、岐阜市の実施する介護認定調査員研修に参加し、スキル向上に努めることができました。要介護認定期間が最長3年間となった事や新型コロナウイルス感染症対応による認定調査延期の影響もあり、年間延べ380件の実績となりました。

6 介護支援専門員実務研修実習生の受け入れ

介護支援専門員実務研修にかかる岐阜県指定研修機関である社会福祉法人岐阜県福祉事業団岐阜県福祉総合相談センターからの要請により、介護支援専門員実務研修見学受講者1名の指導を行いました。

7 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

- (1) 毎週開催 居宅会議
- (2) 研修 苑内研修に積極的に参加しました。

8 利用状況実績表

	H27	H28	H29	H30	R1
平均要介護度	1.90	1.93	1.71	1.96	1.98
総プラン数	1,280	1,248	1,518	1,465	1,321
プラン数(介護)	1,204	1,117	1,183	1,252	1,104
プラン数(予防)	76	131	335	213	217
月あたり件数	106.7	104.0	126.5	122.2	110.0
認定調査総数	376	362	293	405	380

8 ケアハウス大洞岐協苑事業(定員20人)

[概要]

軽費老人ホームケアハウスは、身体機能の低下等が認められ、又は高齢のため独立して生活するには不安が認められる高齢者等に対し、安心した生活が送れる住環境を整えるとともに、

栄養バランスのとれた食事を提供、生活相談の充実、余暇活動の援助など職員間の連携体制を確立し処遇に万全を期するよう努めました。

入居者には要介護状態の方も10名(令和2年3月末時点)と増加しているため、健康状態を把握するとともに医療機関及び居宅支援事業所との連携に努めました。

令和元年度は4名の退苑がありましたが、速やかに入苑案内を実施し4名の新規入所者を迎えました。

施設は開設から16年が経過し建物等の老朽化も目立ってきたため、大浴場のリニューアル工事を実施し、入居者が快適な生活を送れる環境を整えました。

1 重点目標

- (1) 居宅サービス事業所及び診療所と連携を図り、利用者が安心した生活を送れるよう介護サービス等の提供に繋がります。
- (2) 利用者が安全快適な生活が出来るよう環境整備に努めます。
- (3) 感染予防対策をはじめ健康管理に対する意識向上に努めます。

2 重点目標に対する取り組み

- (1) 入居者には要介護状態の方も10名(令和2年3月末時点)と増加しているため、健康状態を把握するとともに医療機関及び居宅支援事業所との連携に努めました。
- (2) 大浴場のリニューアル工事をはじめ空調機器の修繕など快適な生活を送る環境に努めました。
- (3) ケアハウス懇談会にて健康講座を実施するなど意識向上に努めました。

3 サービスの提供

- (1) 入居者に対して、親身になって相談に応ずるとともに入居者間の人間関係の調整を図るため適切な助言を行いました。必要に応じて行政及び居宅サービス等と十分な連携をとり積極的な援助を行ないました。高齢化や要介護状態の進行を考慮し配薬管理と服用援助を6名に対し行いました。
- (2) 入居者に対し毎日3食を栄養士の献立に基づいた栄養バランスの取れた食事の提供を行いました。嗜好調査を年1回実施し、副食の代替え変更が出来るようサービスを行いました。温冷配膳車により、適温での食事を提供しました。
- (3) 大浴場は月曜日から土曜日まで、小浴場は毎日使用できるよう、衛生面や安全面等に配慮し入浴環境を整備しました。

4 生活の援助

入居者に対し、日常生活を楽しく明るく心豊かに生活できるよう、併設している特養の行事への参加を促し、音楽療法、誕生会、納涼祭、運動会、文化祭、クリスマス会など延

べ49名の参加がありました。また、苑外活動として外出ツアーを3回実施し延べ15名が参加しました。さらに、日常生活援助として月2回買い物の送迎を行いました。

5 健康管理

入居者の身体状況を把握するとともに年1回の健康診断を実施しました。また、インフルエンザ及び肺炎球菌ワクチン等の予防接種を促し、感染予防に取り組みましたが、インフルエンザへの感染が1名ありました。感染の拡大防止として、個室対応の徹底及び手洗いの施行・うがい・外出時のマスク着用などの対策を実施し、感染が拡大することはありませんでした。

6 非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年2回(6月・12月)の避難訓練を計画・実施し延べ15名の入居者が参加しました。さらに、防災教育の一つとして居室内の耐震対策の重要性の説明を行いました。

7 会議等

ケアハウス懇談会を毎月開催し、入居者同士の交流の場及び施設との意見交換の場としました。また栄養士による健康講座を毎回開催し、旬の食材にまつわる話や熱中症及び感染症の予防・啓発を行いました。

8 利用状況実績表

項目	H27	H28	H29	H30	R1
平均年齢(歳)	84.4	85.5	86.4	87.95	86.3
平均要介護度	0.97	0.84	0.83	0.90	1.10
延べ在籍者数	239	237	237	240	240
入居率(%)	99.6	98.8	98.8	100	100

9 岐阜市地域包括支援センター東部事業

[概要]

地域の高齢者が、住み慣れた街で安心して生活が送れるよう、地域・医療・福祉をつなぐ相談機関として地域関係機関と連携し、地域包括ケアシステムの確立に努めました。担当圏域の中心地に事務所を構え、地域の皆さまが立ち寄りやすく、また困りごとへの対応も迅速に行ってまいりました。

平成27年度より重点的に取り組んできた認知症対策では、地域包括支援センター内に専任で配置された認知症地域支援推進員と「心をつなぐほっとメイト会」との連携の中で、地域の

実情に即した活動となるよう、ネットワーク会議で上がった要望や提案の実現に向けて地域ごとの取り組みを進めてまいりました。

また、地域で暮らす高齢者が、いつまでも元気で過ごせることを目的として結成された「フレイル(虚弱) 予防専門職チーム」は引き続き地域からの要望を受けて公民館等で予防教室を開催いたしました。また独自のフレイル予防体操やチラシを作り、地域行事等で啓発に努めました。

地域サロンや高齢者の集い、定期総会などでは、地域包括支援センターの活動を紹介し、相互協力が行える関係づくりに努めました。

予防ケアプランでは、高齢者の尊厳ある生活の継続や安定のため、介護保険サービスや市町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業のほか、多様な社会資源を開発・活用し社会参加を継続できる在宅生活の維持に努めました。

1 地域に密着したセンターとしての取り組み

- (1) 相談者のフォロー体制について、担当者が不在でも対応できるよう職員間の情報共有に努めました。また、定期的に相談後の様子を確認していくことで、介入のタイミングを逃さないことや、安心して相談できるセンターとなるよう取り組みました。
- (2) 地域包括支援センターの活動をより多くの方に知ってもらうための広報誌「のんびり通信」を年4回(4月・8月・10月・2月)発行しました。認知症予防、介護予防、地域のサークル活動や認知症カフェ、予防教室への参加案内を行いました。
- (3) 芥見東地域の3世代交流センター「みどりっこハウス」では、第1・3週の水曜日に福祉総合相談の窓口を開設しました。
- (4) フレイル予防専門職チームとして、介護予防教室を年3回(6月・7月・8月)開催し、延べ42名の参加がありました。また、地域からの要望により出前講座を3回(9月・11月・12月)行うことが出来ました。
- (5) 地域サロンに積極的に参加しました。(年間118回)地域包括支援センターの周知活動とともに、講話・体操などを行い介護予防・認知症予防の啓発に努めました。

2 認知症高齢者に対する取り組み

(1) 心をつなぐほっとメイト会の活動

平成27年度より、地域包括支援センターが中心となり発足したケアマネジャー・福祉関係者の有志によるチーム「心をつなぐほっとメイト会」は、東部地域の認知症対策を考える専門職会として、認知症になっても住み慣れた地域づくりを目指し、毎月第4金曜日に定期連絡会議を開催しました。重点課題として掲げた5本の柱(①から⑤)についての活動は以下の通りです。

① 徘徊搜索模擬訓練

前年度までに行った計4回の徘徊搜索模擬訓練の反省から、地域のご意見をもと

に取り組み方法を見直し、地域ごとに幅広い世代に向けた啓発活動や地域の実情の即した取り組みを行いました。

- ・声かけ訓練 4箇所
- ・認知症勉強会 10箇所

② 認知症カフェの開催

- ・ユープ大洞虹の家:計2回(5月、11月、)
- ・岩滝公民館 :計6回(4月、6月、8月、10月、12月、2月)

認知症の方が地域の方と触れ合える場、役割りを持てる場となれるよう認知症ステップアップ研修を修了したサポーターの協力を得て2カ所で計8回開催することができました。

③ 認知症サポーター養成講座

幅広い世代への働きかけとして、小・中学校、高校での開催が出来ました。清流高校においては学生と地域住民とが一緒に学び考える機会となりました。今年度の養成講座は計11回実施し、延べ404名のサポーターが生まれました。

④ 東部認知症サポーターステップアップ研修

認知症サポーター養成講座を受講した方の中から、意欲あるサポーターに対し、認ステップアップ研修を行いました。これまでの研修方法を見直し、さらに実践的な研修となるよう、声かけ訓練を取り入れました。参加者からは、発見時の対応方法や連絡先などが分かった、ためらわず声掛け出来る自信につながったと感想がありました。

⑤ メイト会員の支援

これまでに東部ステップアップ研修を受講された事のある方をメイト会員と称し、フォローアップ研修として認知症サポーター全体会を行いました。認知症の人と家族の会の方よりお話を聞いた後、声かけ訓練を行いました。また、地域で活動する会員同士の繋がりや情報共有のために「メイト会報」を年5回(5月、6月、8月、11月、3月)発行しました。

(2) 見守り体制構築「ネットワーク会議」の開催

認知症見守り体制の構築をテーマとし、「認知症徘徊搜索模擬訓練についての検討会」や、各地域での取り組み方法を考える場として年2回(5月・10月)開催しました。東部4つの地域の自治会連合会・民生委員協議会・社協支部・日赤奉仕団・老人クラブ連合会・居宅支援事業所の他、薬剤師・移送関係者等からの参加がありました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業

生活機能の低下がみられる高齢者に対して、岐阜市が主催する、まめかな訪問事業や口腔機能向上教室(おいしく食べよう教室)への参加を促しケアプランを作成、介護予防に努めました。また、要支援認定者や事業対象者が通所型・訪問型サービスを利用す

る場合においては、介護予防ケアマネジメント事業として自立に向けたケアプランの作成と委託ケアプランの確認を行いました。

住民主体型デイサービスや認知症カフェ事業については、関係機関との連携や継続支援についての相談などに応じ、また対象者に対するケアプランへの記載について、担当ケアマネジャーとの連絡調整を行いました。

◎実績内訳(延べ件数)

おいしく食べよう教室	まめかな訪問事業	短期集中型デイサービス	住民主体型デイサービス
39件	0件	0件	60件

4 介護予防支援事業(介護保険指定 岐阜市指定 第2100100185号)

指定介護予防支援事業の適正な運営を確保し、要支援または事業対象者の認定を受けた高齢者等が住みなれた場所で生活を続けていくため、利用者のニーズを把握し、フォーマル・インフォーマルな社会資源を組み合わせた介護予防ケアプランを作成して適切な予防サービスの調整と自立に向けた支援を行いました。関係機関・各サービス事業所等と情報を共有し、研修会の企画や参加を行うなど介護予防ケアマネジメントの質の向上に取り組みました。

また、東部地域に事業所のある8ヶ所の居宅支援事業所及び近隣地域にある11ヶ所の居宅支援事業所(計19事業所)と業務委託契約を結び、月当たり約203件の予防ケアプラン業務を委託しました。受託事業所とは連携を密にし、利用者の自立につながる介護予防ケアプランの作成に努めました。

5 岐阜市日常生活圏域協議体事業

令和元年度は対象地域を芥見地域とし、年4回(6/11、6/25、11/26、2/25)開催しました。高齢者の集まれる場所「いこいの郷 みどりの家」の開催について、地域住民が主体となって運営をできるよう支援いたしました。

(注)「協議体」とは、地域団体の代表者、介護関係者、福祉関係者による地域の困りごとに対応する社会資源の開発を目的とした話し合いの場

6 利用状況実績表

	H27	H28	H29	H30	R1
相談件数	574	664	663	742	769
総プラン数	3,808	3,982	4,411	4,579	4,362
プラン数(包括)	2,754	2,641	2,430	2,168	1,917
プラン数(委託)	1,054	1,341	1,981	2,411	2,445
委託事業所数	194	212	221	226	235

10 岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター事業

[概要]

岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター(以下、「強化型包括」という。)は、平成30年7月から岐阜市内の中ブロックに属する地域包括支援センター、中央北・中央西・白梅華・島城西・清流・長森・長森南・東部の8か所(以下、「各センター」という。)において機能強化型地域包括支援センター事業を岐阜市からの委託事業として開始しました。

多問題を抱え相談が複雑化している困難事例への対応や、地域包括ケアシステムの深化・推進を進めるための地域づくり、認知症を地域で支える体制の構築など、委託業務内容の後方支援をはじめ、総合調整や助言・支援を行い、下記の事業を基本として公正・中立に支援を実施しました。

1 取り組みの内容

- (1) 高齢者本人及び家庭に多問題を抱える事例、認知症や虐待事例、セルフネグレクト事例、権利擁護を必要とする事例といった困難事例等への①から③に関する支援を行いました。
 - ① 困難事例等の相談対応、同行支援、情報提供。
 - ② センターからの依頼により困難事例検討会や地域ケア個別会議への参加及びアドバイス。
 - ③ 各相談窓口の連携強化と相互の相談支援体制を充実するために、困難事例に対する対応、課題共有などについての連携会議の開催(年 11 回)。また、対応力向上を目的とした地域包括支援センター職員研修を開催(年 1 回)。
- (2) センターの地域ケア会議開催に向けての支援や地域ケア会議から抽出される地域課題の把握、分析、解決に向けて支援しました。
- (3) センターと協力し、担当ブロックの認知症サポーターステップアップ研修を開催しました。また、受講者が地域の見守りや地域支援の担い手として活躍できるよう各センターでの取り組みを促し、受講者のネットワーク構築に努めました。
- (4) センターの認知症地域支援推進員との連絡会を年5回開催し、推進員としての取り組みや活動状況の共有、認知症初期集中支援チームとの連携強化など、認知症施策の推進に向けて支援しました。また、令和元年度はアルツハイマー月間(9月)の取り組みとしてメディアコスモスにて啓発イベントを開催いたしました。その他、岐阜市内の認知症カフェの調査を担当し、冊子として取りまとめました。
- (5) センターの作成するセンター機関誌を監修し、センターの広報・周知啓発を支援いたしました。また、共通するテーマに関しては各センターで活用しやすいように雛形を作成しました。
- (6) 各専門職会に参加して(主任ケアマネ会:5回、社会福祉士会:5回、看護師保健師会:4回)専門職の自己研修を支援し、また、ブロックごとに専門職として地域に発信す

る研修の企画など、資質向上を図り人材育成に努めました。

- (7) 事業の円滑な運営を行うため、高齢福祉課と機能強化型地域包括支援センターとの打ち合わせ会を年に12回開催しました。また、中・北・南機能強化型地域包括支援センター連絡会を年12回開催し、地域包括支援センターが抱える課題の共有や、機能強化型地域包括支援センターとしての支援の方向性、統一した意見のすり合わせなどを行いました。
- (8) 各センターの活動や取り組み、懸案事項や対応策などを共有し、相談できる体制作りとして中ブロックの管理者が参加する中ブロック連絡会を年に2回開催しました。

2 実績内訳

(1) 各センターからの困難事例相談件数

項目	訪問	電話・他	合計
実件数	9	45	54
延べ件数	30	94	124

(2) 各センターからの会議参加依頼

- ① 事例検討会 23件
- ② 地域ケア会議 10件
- ③ その他の会議 30件(内 協議体会議関係 4件)
- (3) 地域づくり(課題、支援方法、会議運営)などの相談があった件数 158件
- (4) 機能強化型地域包括支援センターから必要を感じて支援した件数 54件

11 介護付有料老人ホーム日野岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190100186号

[概要]

岐阜のシンボルである岐阜城を仰ぎ見る長良川の畔にある極めて良好な環境にて、入居者には安心と安らぎのある家庭的な暮らしが提供できるよう日常生活の支援に努めました。また、入居者及び家族の意向を尊重したケアを実施し、日々の介護はもとより機能訓練・医療連携体制・看取り介護などのなどの要望に応えました。また、地域との関わりの機会を多く持ち、地域に根付いた施設となるよう努めました。

介護職員の離職が相次ぎ、人材確保に努めたものの職員体制が不安定な期間が続きました。その影響もあり空床が埋まらず、安定的な事業運営を行うことができませんでしたが、3月には満床にすることができました。新規利用者は10名あり、看取り介護3名を含む退所者は6名でした。利用率は81.8%と前年度を大きく下回りました。

また、施設の防犯体制の充実を図るため、施設の外部3か所に録画機能付きの防犯カメラを設置し万が一への備えとしました。

1 重点目標への取り組み

- (1) 地域貢献・人権尊重・愛情と理解の3つを柱に利用者満足度の向上と有料老人ホームとしてのサービスの確立に努めました。
- (2) 常に相手を理解する、共感する、といった人としての感性を大切にケアの実践を行ってまいりました。
- (3) 利用者が尊厳ある最期を迎えることができるよう、医療機関との連携を深め、さらなる看取り介護の実践を行ってまいりました。

2 介護サービス

施設サービス計画に基づき、入居者の要介護状態の改善又は重度化の防止及び入居者の心身の状況に応じ適切な技術を持ってサービスの提供に当たりました。介護の基本を常に意識し、共感と傾聴を基本とし介護職員としての時代に応じたスキルアップと資質の向上を図りました。

- (1) 入居者に対し、1週間に2回以上その状態に応じ適切な方法により入浴、又は部分浴を実施しました。
- (2) 排泄の自立についての誘導、排泄訓練など必要な支援を行いました。おむつの使用者には、形態別おむつを使用し、随時交換など適切な介助を行いました。また、自立の支援として、おむつを使用しない排泄を実施しました。
- (3) 口腔ケア、離床、着替え、整容等の介護を適切に行いました。
- (4) 入居者の身の周りの整理整頓に努め、室内の換気、温度調整に注意を払い、落ち着いた環境空間を提供しました。
- (5) 衣類は清潔に心掛け、洗濯は適切に行いました。
- (6) 看取り介護希望者には十分な説明を行い、本人・家族・医師の同意の下で看取り支援を行ないました。

3 機能訓練

入居者の誰もが、気持ち良く、楽しく、笑顔で過ごすことができるよう、個別の機能訓練計画を作成し、機能訓練指導員を中心としながら、各職種が連携し実施しました。また、毎日のラジオ体操や嚙下体操、毎月の健康体操も実施しました。

4 食事サービス

誤嚥リスクをマネジメントし、職員の意識向上を図るとともに衛生面の徹底・技術の向上を図り厨房内の管理体制を確立し、安心・安全な食生活の提供に努めました。また、利用者満足度向上のため、嗜好調査を実施しニーズの把握に努めました。

- (1) 摂取状況を観察し、栄養士、看護職員との連携を密に図り、適切な食事の提供をしました。

- (2) 摂取困難な入居者に対しては、食事形態の変更等を図りました。
- (3) 朝食は、主食を選択方式にしました。(週 1 回実施)
 - ・ご飯またはパン ・温かい牛乳か冷たい牛乳またはヤクルト
- (4) メリハリのある食事として年8回イベント食を提供しました。
- (5) 昼食には、月 2 回選択できる食事を提供しました。
- (6) 味のみでなく、見た目の「おいしさ」や「季節感」・「調理の臨場感」を感じてもらえる食事を提供しました。

< イベント食・行事食実施状況 >

4 月 お花見弁当	5 月 端午の節句 (朴葉寿司)	6 月 ステークラン チ	7 月 鰻の蒲焼 デモクック	8 月 流しそうめん	9 月 敬老御膳
10 月 秋祭り	11 月 秋の味覚 ランチ	12 月 クリスマスラン チ	1 月 握り寿司 デモクック	2 月 節分恵方巻 ケーキバイキ ング	3 月 あんこう鍋 ひな祭りラン チ

5 健康管理

入居者の多様な疾患の実態を把握し、介護職員等と協働し健康の保持増進を図るとともに疾病の予防、異常の早期発見と日常の健康状態の把握に努め、常に嘱託医その他かかりつけ医、家族等との連携を図るほか、必要に応じ専門の医療機関の診察を受け、健康管理に万全を期すものとしました。また、感染症の予防と早期対応に努めました。特に2月から発生した新型コロナウイルス感染症については、職員の健康管理や施設内の環境整備等早期に対応し、感染予防に努めました。救急時の対応では、医師と連携を図り、協力医療機関等での治療が受けられるようにして、すみやかに身元引受人及び家族等への連絡を行い、状況の報告に努めました。

- (1) 在宅療養支援診療所の診察 内科月2回 状態に応じて往診あり
- (2) 健康診断 年1回
- (3) 体重測定 毎月
- (4) 予防接種 インフルエンザ予防接種等
- (5) 職員の健康管理
 - ・定期健康診断 夜間勤務職員 年2回、その他の職員 年1回
 - ・定期検便 直接処遇職員 年2回、その他の職員 年1回、栄養士 毎月

6 余暇支援

入居者の多様なニーズに合わせた個別の活動を提供しました。個別化の充実を図り、行事参加、サークル活動、創作活動、リハビリ活動を支援しました。なお、入苑者懇談会、

ミニレクリエーションは定期的に実施しました。

<令和元年度 主な行事実施状況>

日時	主な行事名	内容
4月6日	日野地区花みこし	地域行事で子供神輿が来苑しました。
4月11日	花見	近所を散歩し、桜を見て回りました。
4月28日	清流マラソン見学	日野まちづくり協議会さんと共に、堤防からランナーを応援しました。
6月26日	お花の贈呈	日野まちづくり協議会より種苗の贈呈を受けました。
7月3日	FC 岐阜キャラバン体操	FC 岐阜のアカデミーコーチ、スタッフによる巡回体操教室を受けました。
7月5日	七夕会	職員による七夕物語の劇を皆さんに見ていただき、楽しんでいただきました。
7月18日	流しそうめん	あいにくの雨となりましたが、テントを張って行いました。「雨の中の流しそうめんもいいね」と喜んでいただきました。
7月30日	鰻の蒲焼実演・アイスクリーム	うなぎの炭火焼を実演し、楽しんでいただきました。昼食は鰻丼とともにアイスクリームを召し上がっていただきました。
8月17日	納涼祭(大洞岐協苑)	納涼祭に参加し、出店や盆踊りを楽しまれ、大洞利用者様との交流を図れました。
9月14日	敬老会	昼食は「敬老祝い膳」節目のお祝いを行った後に、催し物として『フォークダンス美輪』を楽しみました。
9月20日	外出ツアー	岐阜県美術館で観賞。またステーキ宮にて食事をしました。
9月25日	運動会	日ごろの運動の成果を十分に発揮していただきました。
10月5日	秋祭り	催し物は「プメハナ・カ・ハレフラ」によるフラダンスと「美並太鼓」の二本立て。多くの模擬店、フリーマーケット等を行ないました。各方面から協力をいただき、改めて地域との繋がりを強く感じました。
10月13日	日野地区市民運動会	3日間の順延のち中止となりました。
11月3日	日野フェスタ	ステージで皆様と歌も披露し、自作展示物や催し物を観て楽しまれました。
11月21日	日野保育園来苑	園児さんとの交流が図れました。

11月29日	ミニドライブ(不動寺)	地元のお寺を散策するとともに紅葉を楽しんでいただきました。
12月5日	手品ショー	入居者の親族による手品ショーを開催。驚きの連続でした。
12月13日	長森第二幼稚園来苑	園児さんとの交流を図りました。
12月16日	もちつき	地元のボランティアさんにもお手伝いいただきながら、餅つきを楽しみ、その後皆さんでいただきました。
12月23日	クリスマス忘年会	今年も盛大に行い、職員による出し物の披露を行ないました。入居者へ日用品等をプレゼントしました。
12月25日	タオルの贈呈	日赤奉仕団日野分団、林連合会長様よりタオルの寄付をいただきました
1月16日	初詣	護国神社へ出かけ、1年の無事を願いました。
2月3日	節分祭	節分の由来や関連話、最後には「鬼」を皆さんで追い払いました。
2月20日	あいばち	新型コロナウイルス感染症対応のため中止しました。
3月	日野小学校5年生来苑	新型コロナウイルス感染症対応のため中止しました。

7 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、また、入居者の希望等を聴取するため次の会議を開催しました。

- (1) 職員会議 月1回
職員の情報共有と必要事項の周知徹底を行ないました。
- (2) 給食委員会 月1回
委託業者や厨房職員との意思疎通を図り、利用者様に楽しんでいただけるような食事の提供をすることができました。
- (3) リーダー会議 月1回
役職者による会議を行い、業務改善や職員育成、事業計画を実行しました。
- (4) 介護力向上委員会 月1回
自立支援と日常生活の充実を図るため、施設評価自己評価点検、業務改善、苦情解決、環境整備に取り組みました。また年2回の看取り研修を行ないました。
- (5) 行事委員会 月1回
年間、毎月の行事計画や手配を行い、入居者に楽しんでいただけました。
- (6) 事故・感染・身体拘束委員会 月1回
事故の分析と再発予防、感染症・食中毒の蔓延防止の検討、身体拘束の廃止検討

と経過確認をそれぞれ行ないました。

(7) 運営推進会議 年5回

入居者自らも主体的に参加し施設運営に関わり、地域との繋がりを持つ場を提供し、利用者家族、地域との連携をさらに深めることが出来ました。3月は、新型コロナウイルス感染症の影響があり中止しました。

(8) 入居者懇談会 年4回

利用者様の意見や要望を直接聴く機会を設け、即時に対応を行ないました。

(9) 防災会議 年2回

年2回の防災訓練の反省や防火、防水に関する確認を行ないました。

(10) ケアカンファレンス 随時開催

利用者を交えてのカンファレンスを随時実施しました。

8 研修

職員の資質の向上を図るため、苑内研修及び苑外研修に積極的に参加しました。

(1) 苑内研修 新任研修、処遇研修、接遇研修、勉強会等を実施しました。

事例検討発表会 年1回(大洞岐協苑の職員研修で看取り事例発表)

(2) 苑外研修 各機関が実施する研修会に参加し、研修報告の機会を設けました。

(3) 資格取得を目標として、職員は自主的に研修、勉強会に参加しました。

9 非常災害対策

入居者の安全を図るため、施設防災管理規程に従って、避難救出訓練と防災会議を年2回実施しました。また、消防施設の保全及び整備点検に努めました。

10 建物施設管理

建物、施設等は、保守点検を定期的実施するほか、清潔な生活環境を整えるため清掃、消毒等を行いました。

11 看取り介護の実施

入居者が人生の終焉を迎えた時に、ご本人及びご家族等の意向を尊重したケアを実施することで安らげる生活の場を提供し、自然な状態のままで残された余命を平穏に過していただく看取り介護は、3名の方に実施しました。

12 空床の活用

有料老人ホームの短期利用への相談はありませんでした。

13 ボランティア活動来苑者(順不同・敬称略)

3月は新型コロナウイルス感染症対応により受け入れを中止しました。

団体・個人名	活動内容	回数・月
たんぽぽ	大正琴	月1回
近藤隆彦	絵手紙	月1回
日野日赤奉仕団	絵手紙	月1回
マッサージ	マッサージ	月1回
森 佳子	音楽療法	月1回
この指とまれ	傾聴・外出支援	月1回
お話の国	読み聞かせ、合唱	月1回
体クラブそよ風	健康体操	月1回
コスモス会	アレンジフラワー	月1回
こもれ陽の会	歌、ダンス	年4回
響	オカリナコンサート	年4回
フォークダンス美輪	敬老会	9月
プメハナ・カ・ハレフラ、 美並太鼓、日野日赤奉仕団	秋祭り・餅つき大会	10月、12月
日野老人クラブ、 日野日赤奉仕団	餅つき大会	12月

14 利用状況実績表

	H27	H28	H29	H30	R1
平均年齢	88.1	85.7	89.5	88.8	90.0
平均要介護度	3.62	3.44	3.62	3.40	3.16
利用延べ人数	10,006	10,096	10,385	10,181	8,677
1日平均利用者	27.3	27.7	28.5	27.9	23.7
利用率%	94.3	95.4	98.1	96.2	81.8

12 日野岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170105074号

[概要]

多様なニーズに対応するため家族や関係事業所と連携を深め、利用者の在宅生活の維持

に貢献しました。安全かつ快適に施設を利用していただくために利用者本位の生活づくりを目指し、施設において日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、高齢者の心身の機能の維持並びにその家族の身体的及び精神的負担の軽減を図りました。また、地域との連携や医療的ニーズに応え、安心して在宅生活を送れるよう、利用者一人ひとりに誠意をもって対応し、信頼される施設作りに努めました。

令和元年度は職員体制が不安定な期間が続いた影響もあり、新規契約者33名、利用率は81.6%と前年を大きく下回りました。

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 有料老人ホームと共に、余暇活動やリハビリの充実等自立支援を図り、利用者・家族・ケアマネジャーが安心して利用できるサービスの提供を行なってきました。
- (2) 地域との交流、ネットワーク会議への参加など等積極的に行い、地域包括ケアシステムへ参画、地域から必要とされる事業所作りを行ないました。
- (3) 主治医、地域医療との連携強化を図り、医療的なニーズに応えることができました。

2 介護サービス

- (1) 居宅サービス計画に基づき、利用者の要介護状態の軽減又は悪化の防止及び利用者の心身の状況に応じ適切なサービスを提供しました。
- (2) 利用者に対し、1週間に2回以上その状態に応じ適切な方法により入浴、清拭及び部分浴を実施しました。
- (3) 排泄の自立についての誘導、排泄訓練など必要な援助を行いました。
- (4) おむつの使用者には、形態別おむつ使用、随時交換の適切な介助を行いました。
- (5) 口腔ケア、離床、着替え、整容等の介護を適切に行いました。
- (6) 利用者の身の周りの整理整頓に努め、室内の換気、温度調整に注意を払い、落ち着いた環境空間を提供しました。
- (7) 衣類は清潔に心掛け、洗濯は適切に行いました。
- (8) 心身の状況等を踏まえ、必要に応じて生活機能の改善又は維持のための機能訓練を行いました。

3 食事サービス

- (1) 摂取状況を観察し、栄養士、看護職員との連携を図り適切な食事の提供を図りました。
- (2) 摂取困難な入苑者に対しては、食事形態の変更等を図りました。
- (3) 朝食は、週1回程度、ご飯かパン・牛乳かヤクルトの選択方式にしました。
- (4) メリハリのある食事として年8回イベント食を提供しました。併設の有料老人ホームと同じ内容のものを提供しました。

4 健康管理

利用者の健康の保持増進を図るとともに疾病の予防、異常の早期発見と日常の健康状態の把握に努め、必要に応じケアマネジャー・主治医又は嘱託医との連携を図る等、健康管理に注力しました。

感染症対策に取り組み、利用者のインフルエンザの施設内罹患患者無しで年度を終えることが出来ました。2月から発生した新型コロナウイルス感染については、職員の健康管理や施設内の環境整備等早期に対応し、感染予防に努めました。

5 生活相談

生活相談員をはじめ従業者が日常生活に関する事等の相談に応じました。

6 送迎サービス

(1) 送迎の実施地域を岐阜市全域、羽島郡岐南町、関市西部地区、各務原西部地区等とし、それ以外の地域に関しても相談に応じて対応しました。

(2) 365日の送迎体制を確立し、希望に添った送迎時間を可能な限り行いました。

7 余暇支援サービス

年間を通して、併設の有料老人ホームと同内容の行事やサークル等を行いました。また、興味関心がある活動を提供し、将棋やオセロなどの余暇支援の充実を図りました。清流マラソンや日野フェスタ等の外出行事にも参加しました。

8 会議等

事業運営の適正及び職員間の連携を図る為に併設の有料老人ホームと協働し委員会活動を実施しました。

9 利用状況実績表

	H27	H28	H29	H30	R1
平均要介護度	2.71	2.67	2.39	2.70	2.63
利用者数	609	538	560	570	514
利用延べ人数	6499	6,144	5,963	6,586	5,976
1日平均利用者	17.8	16.8	16.3	18.0	16.3
利用率%	88.8	84.2	81.7	90.0	81.6